

第18回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本報告書は、「走近日企・感受日本」事業の第2弾第8回(通算第18回)訪日団の報告書です。

本事業は、中国人大学生を訪日視察に招待派遣するもので、中国日本商会在会員からの寄付金を原資として、2007年から年に2回実施しており、今回派遣した18回までで29大学562名の学生に参加をいただきました。

日本を訪れる中国人は近年急増しておりますが、「走近日企・感受日本」事業では、次代の中国を担う若者を派遣し、単なる観光では得られない体験を通じた“ふれあい研修”を行っています。日本企業の経営理念や現場力の視察、大学生との意見交流、日本人一般家庭でのホームステイなどを盛り込み、日中両国民の相互理解の進化が進むよう努力しております。

さて、第18回は、2016年5月24日から5月31日までの8日間、清華大学、中国人民大学、对外経済貿易大学、北京第二外国語学院、中央民族大学に中日交流活動ボランティア枠として北京工業大学を加えた6大学から選抜した29名を日本に派遣し、参加者の感動とともに無事終了することができました。

視察企業は、島津製作所(京都)、アサヒビール神奈川工場(神奈川)、伊藤忠商事(東京)、みずほ銀行(東京)、ホテルニューオータニエコセンター(東京)の5社。この他、京都大学、早稲田大学における日本人大学生との交流、中国大使館の訪問、日比谷松本楼の視察、一泊二日のホームステイ体験など多岐にわたるプログラムを組みました。ホームステイの受入に協力いただいた企業は13社(アルプス電気、伊藤忠商事、新日鐵住金、住友商事、全日空、テルモ、トヨタ自動車、日本貨物航空、日本郵船、丸紅、みずほ銀行、三井物産、三菱商事)にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会の会員企業の多大なる協力と貢献のもとに実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会にも全面的な協力をいただくとともに、訪日団の受け入れや本報告書の編集には、一般財団法人日中経済協会に多大なるご尽力をいただいております。加えて、寄付金の管理は、中国側では中国友好和平発展基金会、日本側では公益社団法人企業市民協議会(CBCC)にご協力をいただいております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力をいただいたすべての関係者に厚くお礼を申し上げます。

本事業が日中相互の国民レベルでの理解促進の一助となり、将来さらに大きな実を結ぶことになれば、これに勝る喜びはありません。

中国日本商会 会長 古場文博

2016年7月